



「うちの福津弁」

祖父：すぐ帰ってくるけんね。
祖母：どこいきよんなーと？
祖父：そこのスーパーたい。

いきよんなーと？



(四角区)
まつもと こうせい
松本 昊青ちゃん

※解説は15ページの下

対応に自信があるわけではありませんが、このようなやり取りをされると、気持ちのよいコミュニケーションはとて難しいと思います。相手も、真心を尽くすことから、人はつながっていると感じています。(ふくふくさん)

市職員の電話対応で不快な思いをさせてしまいお詫びします。電話では相手の表情が見えない分、言葉の使い方や声の感じで、相手が話をしやすいように気を配り、丁寧で分かりやすい説明を心掛けることが大切です。「相手」を思い、心を傾け、

真心を尽くす」ことは接遇の基本だと思えます。職員は、市民の立場に立った対応ができるように接遇研修などを行っています。徹底されています。今後、職員への指導と研修を徹底し、職員の資質向上に努めていきます。

「ねー」と思っただけで、八十路を生きて古里となる。友人にはぐれて福岡駅に降り立ち、1人で海岸

を訪れたのが12歳。その私を詠んだ一首です。一面の菜の花の中の一本道や、夜露に湿った花の香る、月明かりの道をほろ酔い機嫌で家路を急いだ日が懐かしいです。田植えが終わると、カエルの声にぎやかになり、ホタルの灯もありました。

ブラジルのコパカバーナやイパネマの海岸を目にしたとき「福岡と同じだ」と叫びました。思い出さる！(方木修一さん/福岡南/83歳)

福岡の植物や虫などの生き物や、海に関するさまざまな思い出を聞かせていただきありがとうございます。

ブラジルのコパカバーナやイパネマのことを私は知りませんでした。調べてみました。が、弓の海岸で、本当に福岡の海岸に似ていますね。写真を見たときに驚きました。

その他のお便り

松くい虫防除のことを聞きたい

松 くい虫防除には何の薬剤を使っていますか。また松くい虫防除という危険な仕事に、なぜ自治会などの市民に従事させているのでしょうか。(匿名さん)

海岸松林は、生活環境や産業を守り育ててくれた大切な防風保安林です。松林がなくなると、潮風や風に巻き上げられた砂が私たちの住んでいる所に直接飛来し、建物の劣化が早まる、農作物の生育が悪くなる、洗濯物が外に干せなくなるなどの被害が生じます。

松林が減少する原因は、マツノザイセンチュウによる急激な枯れが大部分です。これはマツノマダラカミキリに寄生しており、マツノマダラカミキリが松の若枝を食べたと

きんできた傷口から松の中に入り、増殖することによって松が枯死します。これらの被害を防ぐため、毎年松くい虫防除を行っています。防除で使用する薬剤は、地上散布でモリエートマイクロカプセルとスミパインMC、空中散布でエコワン3フロアブルです。これらの薬剤は、通常の使用方法で直ちに人体に害があるものではありません。散布に際し、化学物質に過敏な方もいらつしやるなどの理由から、用心のためにお知らせしています。

また、自治会の皆さんには防除作業ではなく、その区域に向かう通行人などに対して、用心のために注意喚起などを行っています。

松くい虫防除の方法など、現在変更の予定はありません。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

お便り投稿募集

「好いとお！福津」は皆さんと一緒に作るページです。13ページの市まちづくり推進室のはがきやメールなどで受け付けています。お送りいただいた内容は、紙面の都合で加筆、修正、短縮する場合があります。また、応募多数の場合は選考しますので、掲載できないこともあります。原稿や写真は返却しませんのでご了承ください。

匿名を希望する場合は、その旨を明記してください。広報紙への感想や日々の暮らしのことなど、たくさんの方の声をお待ちしています。

問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎ 43・8113

メール info@city.fukuoka.jp

広報4月号の感想

福岡駅から見桜がきれいだった

福岡 田んぼだったことを、毎号カラー写



真で掲載してみたいかがですか。福岡駅のホームから見る桜は見事でした。(Y・Uさん/福岡南/89歳)

広報4月号で特集した「ふくつ平成史」について、皆さんからたくさん感想をいただきました。ありがとうございます。その中で

も「また市内の歴史を紹介してほしい」「今度は〇〇のを取り上げてほしい」などの声も多くいただきました。皆さんからの感想も参考に、市内に長く住んでいる人、移り住んできた人など市民の皆さんに福岡の歴史を再発見してもらえ

読者の声を中心に、みんなと広報担当で作る交流コーナーです。今月の題字は両谷区の池浦ゆずさんが書いてくれました。

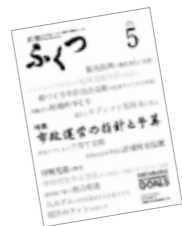


Readers Voice 読者の広場

るような機会を作れたらと考えています。

広報5月号の感想

市債の削減と子どもたちの負担軽減を



特集はとても良かった。子どもたちのための環境整備に重点を置きつつ、市債の発行を削減し、子どもたちへの負担軽減を目指す原崎市長、松田副市長を、私たち

Worldさん/通り堂/64歳)

今号の5ページの市長の言葉でもありましたが、今年度は広報を通して、市の課題を皆さんと共有し、一緒に考えてもらえようという機会にしたいと思っています。早速ご意見ありがとうございます。

広報5月号の感想

津屋崎千軒はどうなるのか

表紙に「津屋崎千軒の魅力促進」とありましたが、詳しい内容が分かりませんでした。また5ページでも津屋崎千軒のランドマークである豊村酒造の煙突に説明もありませんでした。

一方、情報広場ページに「津屋崎千軒なごみ」のイベント案内の記事がありません。4月から指定管理者が津屋崎郷づくり地域推進協議会になったと聞いていたので、どんな催しがあるのか、一度足を運ぼうと思っていたので残念です。(匿名さん)

津屋崎千軒の魅力促進として、特に一昨年から国の地方創生交付金を活用して取り組みを進めています。昨年度は、津屋崎千軒一帯の活性化に向けて、

現存する木造の酒蔵で日本最大級の豊村酒造の保存活用調査などを行いました。今年度も引き続き、津屋崎千軒を未来につなぐための強い思いから、市政運営の指針に掲げました。確かに5ページの写真には説明を入れるべきでした。

また津屋崎千軒なごみのイベント案内は、毎月15日号の観光イベントを紹介しているコーナー「Pickup Events」でまとめて紹介しています。

その他のお便り

職員の電話対応を改善して

市 役所の特に一部の男性職員は電話接遇の改善が必要かと思ひ、筆をとりました。「はあ・・・」「そうですか・・・」「沈黙」といったやり取りがありました。私も決して自分の電話